

日常風景における、脳卒中発症の一例を示す、架空症例です。  
読み合わせに御活用ください。

夫婦二人暮らし、昼下がり。妻が洗濯物を干している。  
妻が夫に話しかける。

妻：「今日の夕飯どうしようか？」

夫：「あー、すきやきなんか、たまに食べたいね。」

妻：「じゃあ、お肉買ってくるから、残りの洗濯物と、お留守番お願い。」

妻は買い物のため外出の準備をし始め、夫は残りの洗濯物干しにとりかかった。このときまでは、特に変わった様子はなかった。

妻：「いってきます。」

夫：「行ってらっしゃーい。」

30分後、妻は帰宅した。

しかし、夫は床に座り込んだままだった。洗濯物はほとんど干せていない。

妻：「ただいまー」

夫：「ああ・・・おかえり。」

妻：「あら？どうしたの？」

夫：「いやあ・・・なんか、左手が、いうことをきかないんだ・・・。」

そうやって夫は立ち上がるが、足どりはフラフラとおぼつかない。  
こんな夫を見るのは初めてだ。妻は心配した。

妻：「大丈夫？どこか、具合でも悪いの？」

夫：「少しめまいがしてね・・・疲れているのかな？大丈夫、少し横になって休めば治るよ。」

妻：「うん、わかった。」

夫は寝室に向かった。

夕方になっても起きてこない夫が気になり、妻は寝室へ様子を見に行った。

そこには・・・

ベッドの上で意識を失っている夫の姿。左口角からよだれを垂らしており、呼びかけても返事が無い。

すぐに119番した。

救急搬送され、病院で医師から説明を受けた。

脳梗塞だった。

妻は思った。

“ああ・・・あの時、あの時だ・・・!!私が・・・早く、救急車を呼んでいれば・・・!!”

左手が動きにくい、ふらつく、めまい・・・今になって、それが脳梗塞の初期症状であったことに気付き、妻はひどく後悔した。まさか、こんなことになるとは思っていなかった。今はただ、夫の命が助かることを、祈るばかりである。

私はA施設の介護職員だ。昨年の春に入社し、一年が経った。今日は、介護士の先輩と看護師一人、合わせて三人で夜勤だ。

夜はナースコールの嵐である。夜になると、不安が強くなったり、トイレが近くなったりする利用者さんもいて、三人の職員で何とか現場を維持している。

深夜になって、ナースコールも少し落ち着いた頃、Bさんが部屋から出てきた。

私：「どうしましたか？」

Bさん：「んー・・・、いや、頭がクラクラしてねえ。我慢できないほどではないんだけど。」

“いつもはぐっすり寝ている方だけだな・・・あ、そういえば、さっき、睡眠薬飲んでもらったばかりだ。きっと寝付けなくて、頭がボンヤリしてるのかな。”

私：「そうですか。もし、ひどくなるようなら、また知らせてください。もう夜の11時だし、一旦、ベッドに戻って、横になりましょう。」

私はそう言って、夜勤を続け、2時間後に休憩に入った。

休憩中、突然、バタバタと慌しい足音が聞こえた。休憩室から出てみると、看護師がカートを押して出て行くところだった。

慌ててBさんの部屋へ向かった。

明らかにBさんの様子がおかしい。意識が無く、左上下肢が脱力している。

私：「何があったんですか!？」

看護師：「急変です！救急車を呼んでください！」

すぐに119番した。

病院で受けた診断は、脳梗塞。Bさんがめまいを訴えてから、4時間後の救急搬送だった。

医師：「もっと早くに症状に気付いていればね・・・薬も使えたんだけど・・・」

“ただの眠気だと思っていた。自分が気付けていれば・・・!!”

後悔した。

Bさんは、今、集中治療室に入っている。